

## 1、目標

- ・コロナ禍でのつくしらしい保育活動、保育の充実。職員の連携。子どもが主体となる保育。子ども仲間づくりを考え学ぶ保育運営。実践、理論を保護者、職員で学び共有。各年齢の発達学び直し。子どもも大人も、共感すること、共感される心地よさを感じられるように関わる。一人ひとりにあった関わりを模索する等が挙げられていた。

## 2、上半期自己評価

- ・コロナ禍で感染対策、行事についてその都度職員間で話し合いながら模索してきた。共有・共感が難しいからこそ時間をかけ話し合うことの大切さを感じた。職員間でコロナ禍に負けない保育活動を考えてきたことについての記載は多かった。
- ・こどものアイデアを膨らませた保育・保育者が主導にならない保育・子どもの自己主張、心の葛藤に余裕をもって関わる、子どもに寄り添う保育をすることができた。半面、大人の都合で子どもの動きを変えてしまうことがあった。子どもとの話し合いの仕方、進め方に課題、活動の振り返りがもてなかったと反省する職員もいた。

## 3、今後の課題・目標

- ・上半期の目標の継続（複数）
- ・コロナ禍での保育の充実。こどもが活動の主人公になるような保育。“子どものかえし”を待てる保育。子どもの楽しいことに共感。子どもと「楽しい」探し。担任間の連携。発達の学び。タイミングと実行力。関わりすぎず、見守ることを大切に。遊びの展開のきっかけとなる声かけや環境設定を意識。実践の積み重ね、振り返り。子どもの発想・発進を大切に。

## 4、下半期自己評価

- ・コロナ禍でも子どもが楽しめる活動の仕方・方法等職員間で考えられた。黙食のもどかしさを感じながらもこんな時だからこそ、楽しく嬉しい気持ちで食べてもらえると良いと考えながら給食を作ることができた。また、感染症対策の中で、子どもたちに対して管理するような言葉かけが多くなってしまった…、この情勢の中で、“決断”するということの大変さ、大切さを学ぶ一年だった。昨年からの悩みや前向きな思い、いろいろな経験はさせたいが…、社会的に考えると…と苦渋の思いが出されていた。
- ・職員間の連携を大切にしているが、話しやすい雰囲気化だったかと反省したり、踏み込んだ話ができない自分への課題をクリアにする等、前向きな意見のほかに、‘尊重、共感’、人間関係が様々に交差している中で、全てを尊重、共感するというところに息苦しさを感じたり、八方美人…、集団の中での自分らしさ…を模索している職員もみられた。
- ・子どもの中に「～らしく」「かっこよく」等、目標が膨らんだ時、大人が「もっと～」と思い大人

の願いが強すぎておしつけてしまっていないか、子どもの仲間関係での葛藤に見守りや間接的な関わりが求められどうしたら良いか悩む等、子どもとの関わりでの悩みが出されていた。

- ・日々の保育の中での悩みを話し合う、学んだことを実践、子どもたちと楽しい時間を共有、子どもの思いも否定ではなく、くみ取り・受け止め・共感する、遊びに介入しやり取りを繋げる場面と見守る場面を見極める。「やってみたい」というひらめきを信じ行動する等、保育の中で意識することで日々の積み重ねや向上に繋がると実感・充実感を得た職員も多かった。
- ・保護者交流ができるようアンケートを作り保護者同士の繋がりを持たせた。一方、保護者支援として、傾聴はわかるものの園の姿勢も大事であると感じる中で、様々な考えを持つ保護者への関わり、支援に悩む年であった。

## 5、その他

- ・その人理解の意味…、たとえば「私の思い、わかってもらえない」と相手に思う自分…、ではこの自分は相手を分かろうと感じようとしているのか…この双方の思いがあってその人理解になるのではないか…。
- ・子どもの可愛さに元気をもらっている。(複数)
- ・子どもの(保育)見方、考え方を研修の中でみんなで共有することで、それが記録を書く時の捉え方にもつながると思う(園内研修など超勤をつけて)。
- ・みとめあうことわかりあうことは説得や誘導とは違い、お互いに対等に行うべきもの、それが保育にも職員集団作りにも繋がると思う。
- ・清掃や消毒など、園全体のことにもっと目を向けていきたいと思う。
- ・知識・技術、経験等、全てにおいて勉強、努力が足りていないのもっと深めていきたい。
- ・自分では忙しいとか大丈夫とか思っている、気づかないうちにしんどくなりやすい傾向あるので気をつけている。
- ・この2年、苦しいつらいと感じることがとても多かった。自分の許容範囲がオーバーしている(家庭と仕事の両立の面で)上で、踏ん張ることが続き、この先続けていけるか自信がない。上の子が学童に入れなくなった時のことも気がかり。仕事を通して去年より今年と成長できたことは嬉しく思うが、心が壊れそうと感じる日も多い。
- ・この年齢になり身体も重くなり、疲れやすくなっているが、まだ子どもと走れる、なわとびもできるし若い先生にはまけない体力はあるかも…と思う。
- ・階段の窓に季節や遊びの様子を飾っていてとても楽しかったです。愛や想像力を感じました。
- ・この一年は「言葉」「伝えることの難しさ」について考えさせられる一年だった。言葉一つで頑張ろうとパワーをもらえたり、逆に心が折れたり、不信感を持ったり、一生ついていきます!と思えたり…。同じ「言葉」でも受け取る人の立場や状況、モチベーションで全く違う意味になったりするんだと改めて言葉のこわさと医大差を考えさせられた一年だった。
- ・コロナ禍で食事の提供方法を模索しているが、子どもたち気持ちよく食事ができるよう考え工夫していきたいとおも。
- ・みんなに支えてもらっていると今まで以上に強く感じる。時短をとれるのもみんなが支えてくれるから撮れる。感謝でしかない。